

## 1、教育の責任

担当する専門領域は、大きく分けて「国語の領域」と「言葉の領域」の2領域である。加えて、保育士資格、幼稚園教諭資格の3つの資格取得に必要な科目を担当している。主な担当科目は以下の表のとおりである。

### 【大学】

| 科目名   | 形態 | 単位数 | 開講時期 | 資格 |
|-------|----|-----|------|----|
| 日本語基礎 | 講義 | 2   | 1年前期 |    |
| 国語表現法 | 講義 | 2   | 1年後期 |    |

### 【短期大学部】

| 科目名      | 形態 | 単位数 | 開講時期      | 資格        |
|----------|----|-----|-----------|-----------|
| 日本語基礎    | 講義 | 2   | 1年前期・後期   | 保育士(必修)   |
| 国語表現法    | 講義 | 2   | 2年前期・1年後期 | 保育士(必修)   |
| 保育内容(言葉) | 講義 | 2   | 1年後期      | 保育士(必修)   |
| 子どもと言葉   | 講義 | 2   | 2年前期      | 保育士(必修)   |
| 保育実習指導Ⅰ  | 講義 | 2   | 1年通年      | 保育士(必修)   |
| 教育実習     | 講義 | 2   | 1・2年通年    | 幼稚園教諭(必修) |

## 2、教育の理念

### ① 国語を通じた人との関わり方を理解する。

近年、国語力の低下が問題となっている。知識はあるが、自分の思いを人に伝える文章力や表現力の乏しさ、話し言葉と書き言葉の区別が出来ないという点に壁を感じる学生は少なくない。約15年の高等学校での実務経験を活かし、国語を学ぶ意義を考えさせた上で、主体的に学ぶ意欲を掻き立てられるような内容を展開する。また、他者と協力しながら、実社会で通用するような国語力を身に付けるために自らが解決策を考えその課題に取り組んでいく。また、言葉の本質を理解し幼児教育における言葉の使い方についても考えさせた上で保育現場で活躍できる人材育成を目指している。

### ② 資格取得に必要な実践指導を行う。

保育実習指導にあたっては、保育士資格を取得するための実習に向けた指導を行う。実習記録の書き方や指導計画立案などの実習に向けた指導を重点的に行っている。

る。幼稚園実習では、4週間という長い期間学外実習を行う。たいていの学生は、実践よりも実習記録に労力を費やしてしまうため、そもそもの目的を明確にさせながら実践力を養うような指導を行っている。実習終了後には実習報告会を行い、他者と実習内容を共通しながら自身の課題を明確にさせている。卒業後に即実践力となれる人材育成を目標としている。

### 3. 教育の方法

黒板に板書するスタイルと PowerPoint の両方を使って講義を行っている。学生は穴埋め式のプリントを使用したり、自身で必要なことをメモするような白紙の紙を使用したりと、各回ごとに異なる。あくまでも、必要な文言を「聞く・読み取る・文章にする」という力を付けさせるためである。また、一方的な講義にならないように、適宜グループワークを行っている。授業は学生が主体となって受けるものだという考えを持たせながら、知識を得るだけでなく体感することを重視している。「言葉」の領域に関しては、絵本の読み聞かせや紙芝居実践を通して、人前で表現することの難しさを体感させつつ、自身の持つ課題に気づかせるようにしている。

### 4. 教育の成果

(1) 学生の授業評価は全体を見ても4.8以上となっている。学生からは、「自身の苦手な部分を理解した上で更にスキルを身に付けたい。」「敬語表現をもっと学びたい」といった、学ぶ意欲が向上したという感想が多く挙がっている。また、「表現力が身に付いたように感じる。」「友人の発表を見て、人に伝えるために必要な要素が理解できた。」など、自身のスキルが向上したことを実感している学生が多くいることも分かった。

「言葉」の領域に関しては、読み聞かせ実践の回数が増えるごとに、見る視点や読む視点が変化し、自分が好きだから読むから、人に伝えたいから読むという感情に変化していく。人に伝えるということが自分から他者の視点になっていることを実感している。

### 5. 教育の改善と今後の目標

「国語」という領域は大変広い。ただ漢字や語句などの知識量増やしたをからと言って実際に形にしようとする壁にぶつかる学生は少なくない。むしろ8割の学生はそうであろう。実生活には国語は欠かすことが出来ないのに、当たり前にあることに慣れてしまい、その慣れを他者に指摘されることを極端に嫌う。まずは学生が「国語力」に自信を持つことを目標とする。個人の知識量を増やすために、小テストを行うことが必須である。また、その知識がどう生かされているのかを体感するためにも、

毎時間他者との意見交換や自身の思いをアウトプットする時間を持ちたい。更には、他者から自身の文章を見てもらう機会を増やすことと、それによって自身の課題をどう解決していくかということにも目を向けさせたい。

自分を表現することを苦に思わず、思い切り表現できる心と技術を身に付けさせることが、今後を担う学生の輝かしい未来につながると信じている。